

令和5年度

事業報告書

社会福祉法人 上士幌町社会福祉協議会

事業項目(決算額)		
事業名	事業実施状況	評価・課題等
1. 法人運営等事業 (3,438,031円)		
①社協運営の基盤づくり	○一般会員 1,510戸 453,700円 ○特別会員 216名 487,000円	●一般会員、特別会員とも減の状況である。会員増強に向けて一層の努力が必要である。
②関係機関・団体との連携強化	○民生委員児童委員協議会総会への出席 ・社協事業説明と協力要請 ○11月24日、町理事者・社協三役懇談実施 ○町保健福祉課との連携 ・日常的な課題について随時協議 ○地域福祉連携会議幹事会への出席 ・5月17日、事務局長・次長出席 ○地域福祉連携会議への出席 ・10月4日、会長・事務局長出席 ○上士幌福寿協会役員・社協役員懇談会開催 ・7月27日、11月28日の2回開催	●福祉関係機関・団体との連携強化に努めた。 ●社協事業の推進にあたり、関係機関・団体との共通理解を深め、連携を図ることは重要なので、引き続き連携強化に努める。
③会務の運営	○理事会の開催 6回開催 ・5月26日、6月16日、7月25日、9月22日、12月15日、3月18日 ○評議員会の開催 3回開催 ・6月16日、10月18日、3月26日 ○部会及び委員会の開催 ・随時開催 ○監査の実施 ・監事による内部監査 7回実施 ・会計事務所による指導、外部監査 毎月実施 ○正副会長会議の定例化 18回開催 ○職員会議の定例化 8回開催	●理事会は役員改選期のため6回開催し、的確に職務を執行した。 ●関係機関・団体等からの理事選出により、社協運営に対して多くの意見反映がされている。 ●評議員会は3回(定例の2回その他、理事の退任・選任があったため増)。必要事項を決議した。 ●2部会(地域部会、福祉部会)、3委員会(総務委員会、評価委員会、特別委員会)、それぞれの役割分担を明確化し、社協運営に反映した。 ●監事・会計事務所の監査を定期的を受け、適切な法人運営、会計処理を行っている。 ●正副会長会議の定例開催の他、職員採用や課題・法人運営・事業実施のため随時開催し対応がスムーズにできた。今後も、定例、必要時開催に努める。
④役職員の研修参加	○道社協主催研修への参加 ・10月3日～25日 法人役員研修web参加 ○道社協十勝地区事務所主催研修への参加 ・9月27日 地域の支え合い活動推進セミナー参加 ・2月9日 地域に理解され支持される社協づくり研修会参加	●研修への参加することにより、役職員の研鑽及び意思疎通が図られた。 ●今後も、計画的な研修を実施するとともに、各種研修会等に参加する。
⑤共同募金運動への協力	○共同募金(10月) ・募金額 1,951,954円 ※期限外 84,400円(次年度実績として取り扱い) ○歳末たすけあい募金(12月) ・募金額 12,500円	●カプセルトイ設置によるピンバッジ募金を3施設に設置した。カプセルトイによる募金は実績増となった。 ●共同募金は目標額を上回った(達成率106.66%)。今後も、募金の周知と理解を得る取り組みを行う。未協力町内会に確認・協力依頼を行っているが、期限外の募金が次年度扱いとなった。

2. 共同募金配分金事業 (7,037 円)		
①歳末たすけあい募金配分「生活困窮者支援事業」	○生活困窮者支援事業の実施 ・食料品等の現物給付 1件 1名に対し7日間分の食料提供 ・1月18日「フードバンク窓口連携事業」 説明会出席	●歳末たすけあい募金を財源に実施した。 ●コロナ禍等の社会情勢もあり、セーフティネットとしての必要性は高く、生活相談等があった際に、町・民生委員児童委員協議会・とかち安心センターとの連携強化を図る。 ●北海道フードバンク窓口連携事業と連携し、支援の充実、対応の強化を行う。

3. 地域福祉活動推進事業 (54,325 円)		
①福祉関係者懇談会	○上士幌福寿協会役員・社協役員懇談会の開催 ・7月27日、11月28日の2回開催	●上士幌福寿協会と社協双方の事業理解及び連携のため実施した。 ●今後も継続して実施する。
②見守り・安否確認のネットワークづくり	○町の情報共有システム(バイタルリンク)を使い要援護者、認知症高齢者の情報共有を行っている。 ・10月26日 北海道孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム会議出席	●町と新聞販売店、郵便局、コープさっぽろ等との協定締結は実施されているが、他事業所・地域にも広げる必要がある。 ●各行政区に小地域ネットワーク、見守りの組織について提案する。
③地域見守り安心メール配信事業	○認知症高齢者・子育て関係・防災関係などの情報を登録者に配信 配信なし ・町が運用開始した@InfoCanalから情報を得る方が増えており、情報内容も重複する内容が多い。 ・北海道警察の見守りメールからは近郊の情報が無かった。	●社協の情報発信のあり方を検討し、メール配信、SNSを含めた活用を検討する。 ●メール配信機能も備える、kintone plusとメール共有ツールを活用し情報発信を行う。(北海道社会福祉協議会:北海道災害ボランティアセンターが発災時に、市町村災害ボランティアセンターに貸与し運用予定ソフト)
④地域福祉実践計画の推進	○第6期地域福祉実践計画に基づき、事業実施 ・評価委員会の開催 4月25日、2月27日	●評価委員会で進捗状況評価を実施した。 ●役職員の共通認識のもと、達成状況を検証して事業の修正及び見直しを行い、次年度事業に反映する。

4. 広報活動事業 (1,046,210 円)		
①社協だより発行	○毎月25日発行 町広報に折り込み配布	●毎月発行し、町民に読まれやすい紙面づくりに努める。
②ホームページの活用	○令和5年10月から新HPを立ち上げ ○毎月、広報発行時に定期更新し、その他、随時更新を行い情報発信した ○収支予算書・事業計画及び事業報告の掲載	●全国社協のHP作成支援ツールは令和6年度末で終了。独自ホームページ開設を行い、SNSと連動した情報発信を行い社協活動の周知及び理解・協力を得る。
③SNSの活用	○社協活動PRのためSNSの活用 ・令和5年度未実施	●HPと連動しSNSでの情報発信を行う。

5. 厚生援護活動推進事業 (215,984 円)		
①被災者見舞金の配分	○実績なし	●対象者が発生時に随時対応している。
②無縁仏供養祭	○7月3日 18名参加 ・静民の碑・勢多地区共同墓地にて実施	●町理事者、民生委員児童委員、社協役員が出席して実施した。 ●無縁仏の供養として、今後も継続して実施する。

③会葬見舞セットの進呈	○進呈実績 61件	●町民課窓口にて届出時に進呈した。 ●今後も継続して実施する。
④お気持ち香典袋配布事業	○配布実績 0件	●希望者には、随時社協事務所窓口で配布する。

## 6. 児童・母子福祉事業 (0 円)

①福祉教育推進事業	○小中高校生（狭義的福祉教育関連事業）対象事業 ・上士幌小学校 （防災、福祉授業実施） ・上士幌中学校 （暑中見舞い・寒中見舞いの作成、認知症サポーター養成研修実施、防災・福祉授業実施、おひとりさま交流会協力） ・上士幌高校 （グリーン作戦、クリスマスコンサート、ほがらかサロン協力） ○地域住民（広義的福祉教育関連事業）対象事業 ・生活支援コーディネーターが実施する「お宝さがし講座」や「お宝発表会」で意識づけや活動推進を行った。 ・住民主体活動の側面的支援（地域食堂うれしか、ボランティア・サロン活動等）	●子どもの学齢期（小・中・高）ごとの福祉教育・ボランティア支援は必要であり、今後新たな事業展開の検討を行い、福祉教育を推進する必要がある。（狭義的福祉教育）  ●広義的福祉教育として、地域住民を対象とした福祉に関する教育（周知・動機づけ）を通して、まちづくりについて考え実行する事業等を実施し、住民参画の福祉のまちづくりの推進を展開する。  ●感染症の状況をみながら実施する。
-----------	---	--

## 7. 障害者福祉事業 (350,428 円)

①在宅重度障害者と家族のつどい	○9月21日 よつば乳業十勝主管工場他 ・15名参加	●外出機会の提供の効果は大である。 ●各事業所との連携が図られており、対象者の推薦、また、参加者の体調等を各ケアマネジャーに確認することができ、安全な外出を提供することができた。 ●参加しやすい事業内容を検討する。
②ふれあい広場	○11月18日 生涯学習センターにて開催 ・コロナ禍で中止していたが、3年振りに開催。農商工生涯学習まつりが、道の駅で開催となったため、初めて単独開催した。 ・参加者 300名以上	●農商工生涯学習まつりの実施及び場所の確定が遅れたため、開催が遅れたが、定期的にイベントが少ない時期で、初の単独開催となったが、盛況に終了した。 ●感染状況を見ながら適切な予防に留意し、関係機関・団体の協力を得て開催する。 ●今後も開催時期及び内容の検討を行う。

## 8. 老人福祉事業 (393,244 円)

①おひとりさま交流会 (旧ひとり暮らし高齢者親睦会)	○1月31日 山村開発センターにて開催 ・コロナ禍で中止していたが、4年振りに開催。アンサンブルグループの演奏、中学生との交流・合唱で楽しみ交流した。 ・参加者 約130名（関係者含む）	●新型コロナウイルス感染予防対策が緩和され、状況を見ながら適切な予防に留意し、関係機関・団体の協力を得て開催する。 ●中学校をはじめ、ボランティア団体、サークルの協力・調整を図りながら内容の検討を行う。
-------------------------------	---	--

②介護従事者・協力者の人材育成、発掘の協力	○まちづくり会社が初任者介護職員研修を実施 ・10名受講修了 ・今年度、受講者の社協登録ヘルパーへの登録はなかった。	●主体的な実施とはならないが、町保健福祉課、まちづくり会社及び上士幌福寿協会と今後の人材育成、発掘に関して協議、協力しながら実施する。
③介護者家族団体活動の支援	○いっぶくしていく会への活動費助成 ○認知症カフェに協力	●介護者家族団体活動に活動費を助成し、側面からの支援を実施した。 ●介護者家族の相談・支援として、認知症カフェに協力し、ケアラー（介護者）支援を行った。
④ふれあい運動交流会 (旧おとしより・障がい者スポーツ大会)	○8月18日 スポーツセンターにて実施 ・コロナ禍で中止していたが、3年振りに開催。誰もが参加しやすい競技内容で実施した。 ・参加者 74名。関係者 19名	●3年振りの開催で、開催時間、競技内容を配慮し実施。盛況に終了した。(豚汁の提供は見送った) ●感染状況を見ながら適切な予防に留意し、関係機関・団体の協力を得て開催する。

9. ボランティア活動振興事業 (557,796円)		
①ボランティア活動保険加入	○ボランティア活動者、団体、サークルの加入助成	●安心してボランティア活動を行うことができるよう継続して支援する。
②ボランティア研修会参加助成	○ボランティア愛ランド北海道 ・中止のため未執行 ○10月29日 ボランティアミニ愛ランドとかち(音更町開催)参加 ・参加者 5名	●ボランティア実践者の研修機会、全道・管内のボランティアとの交流・情報収集の機会として参加の意義は大きいと、今後も参加する。
③ボランティアスクール	○2月28日 生涯学習センター ・「支え合う地域づくりのために」～相手の心に寄り添ったボランティア活動～ ・講師 北海道総合福祉研究センター 理事長 五十嵐教行さん ・参加者 32名	●ボランティアの養成、資質向上のため研修は重要であるため、感染予防を行いながら実施する。
④空き缶回収クリーン作戦	○5月13日 市街3コースで実施 ・コロナ禍に対応した現地集合の分散方式にて実施 63名参加	●清掃活動は積極的に取り組まれており、今後も継続して実施する。
⑤ボランティア需給調整	○主にボランティアポイント制度の需給調整の対応	●従来の社協が実施するボランティア需給調整と、ボランティアポイント事業との関係調整を図る。
⑥ボランティアセンター運営委員会	○ボランティアセンター運営委員会の開催 ・3月29日 生涯学習センター ・実施事業に関する報告、新年度事業について協議した。 ○ボランティアのつどい ・感染症予防のため未実施	●主体的活動を目指し、運営委員会の強化を図る。 ●他市町村の状況や研修に参加して研鑽を積み、センターの機能充実に努める。 ●「ボランティアのつどい」をボランティアセンターの主体事業として位置づけ実施する。 ●感染予防を行いながら、今後も継続して交流・研修会の実施に努める。
⑦ボランティア団体活動助成	○ボランティア4団体に助成 ・みどり会、夢気球、老連女性部、お話し「カッコウ」	●継続して助成する。
⑧ボランティア活動実践校助成	○町内の小学校、中学校、高等学校に助成	●継続して助成する。

<p>⑨ワークキャンプ (夏・冬)</p>	<p>○すずらん荘 夏・冬中止 ・感染症予防のため中止 ○認定こども園 夏 2名参加 冬 参加者なし</p>	<p>●中高生にとって、福祉の現場での実践的な体験は効果大きい。 ●参加を募るよう学校との連携を図る必要がある。</p>
<p>⑩ボランティアポイント事業</p>	<p>○平成29年度から町補助事業として実施 ・ボランティア登録者数 42名 (新規ボランティア登録0名) ・主に、施設関係、社協事業、プル選別、図書館移動図書返却本の清掃、図書館主催映画会の受付、ごみ出し支援等 ・デイサービス等の活動が再開 ・登録研修会を希望者に対し随時開催 ・ボランティアミーティング開催 9月25日 15名参加 「ダメージを受けない・ボリュームアップする髪の乾かし方」 講師 野村理容室 野村恵子 氏</p>	<p>●高齢者の社会参加を通じた介護予防を推進し、地域住民の相互の交流を目的として実施した。 ●引き続き潜在的人材の掘り起しを図る。 ●受入先機関と密に連携を図り、ニーズを確認しながら登録ボランティアの活動の継続と充実を図る。 ●登録ボランティアの資質向上を目指す。 ●コロナ禍におけるボランティアの在り方や活動について、登録ボランティアの意見を聞きながら、「今できる活動」「今必要な活動」について進める。</p>
<p>⑪地域福祉リーダー資格取得助成</p>	<p>○未実施 ・感染症予防のため未実施</p>	<p>●研修に参加し、資格取得者が、サロンやふれあい広場等で普及・啓発を行う。</p>

#### 10. 在宅福祉サービス事業 (2,515,891円)

<p>①ふれあい郵便</p>	<p>○年賀状 ・協力団体の対応が難しく実施なし ○暑中見舞状(上士幌中学校生徒作製) ・87歳以上のひとり暮らし高齢者 64名 ○寒中見舞い(上士幌中学校生徒作製) ・87歳以上のひとり暮らし高齢者 52名</p>	<p>●中学生による暑中見舞い、寒中見舞いを送付した。 ●事業が定着しており、はがきを楽しみにしている対象者も多い。 ●継続して実施する。</p>
<p>②要援護高齢者等訪問サービス</p>	<p>○実人数0名、延べ訪問回数 0名 ・コロナ禍の影響もあり実績なし</p>	<p>●サービス提供により、利用者の在宅での生活を入所ぎりぎりまで支えている。 ●ヘルパー確保と充実が課題である。</p>
<p>③福祉有償運送事業</p>	<p>○登録人数54名、実利用人数29名 ・総利用回数996回(前年度980回) ・透析、通院利用。利用回数は回復傾向 ・前年比総利用1.0倍、実利用人数1.2倍</p>	<p>●引き続き移動困難者に対する外出支援を継続し、生活向上の支援を行う。 ●車輛の故障や事故が起きないように、整備・点検等に努める。 ●運転手の確保が課題である。</p>
<p>④ふれあいサロン</p>	<p>○ほがらかサロンの実施 ・12回 延べ353名参加 ・通常以外にバス遠足(7月)、クリスマスコンサート(12月)、映画鑑賞会(9月、3月)実施 ○ぶらっと・かふえ ・感染予防のため未実施 ○出前サロンの実施 ・3回実施 ・3の2区ゆうゆう会、コミュニティーくるみ ○サロン相談回数 ・6回 ○ふまねっ党の実施 ・12回 延べ128名参加</p>	<p>●充実した地域交流、異世代交流の場として提供した。また、高齢者の居場所づくりとして取り組む必要がある。 ●感染症の状況に合わせた地域交流の在り方を提案し、開催形態を検討しながら実施する。 ●出前サロンによる地域派遣を行った。 ●既存のサロンの維持を重視した。リーダー的な役割を担っている方々が、維持していくことに不安を抱いているため、継続していくための相談、支援を強化した。 ●介護予防ツールとして、ふまねっの充実、強化を継続しながらふまねっ以外の介護予防運動の導入及び推進を行う。 ●登録ボランティアの育成を行う。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月バス遠足を実施</li> <li>○男組ふまねっとの実施（男性対象）</li> <li>・20回 延べ151名参加</li> <li>・7月バス遠足を実施</li> <li>○サロン助成の実施</li> <li>・北居辺サロンあじさい、コミュニティく るみ、共和女性学級、さくらクラブ</li> <li>○すこやか郵便</li> <li>コロナ禍の代替事業として実施したが、送 付を終了し、外出への促しと外出機械の提 供へ内容変更した。</li> <li>・脳トレーニング送付 1回送付 計60名送付</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●気軽な外出の場として、参加者の拡充を図 る必要がある。</li> <li>●既存サロンに対して。出前サロンや相談等 の支援を行い、登録ヘルパーを同行し、レ クリエーションスキルのアップを図る。</li> <li>●健康マージャンサークルの支援を行った。 引き続き新規サロン開設支援を行う。</li> <li>●福祉教育として、すこやか郵便やクリスマ スコンサート等への児童・生徒の参加を継 続していく。</li> <li>●登録ヘルパーの不足が課題である。</li> </ul>
⑤生活支援サービ ス	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実人数 0件、延べ訪問回数 0回</li> <li>・コロナ禍の影響もあり実績なし</li> <li>・ゴミ出し支援については介護支援ボラ ンティアが対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●サービスの提供実績はなかったが、他のサー ビスを使えないケースに対応すること ができる選択肢として、必要なサービスで ある。</li> <li>●ヘルパー確保と充実が課題である。</li> </ul>
⑥ふれあいオリ ンピック	<ul style="list-style-type: none"> <li>○感染症予防のため中止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新型コロナウイルス感染予防対策が緩和 され、状況を見ながら適切な予防に留意 し、実施を検討する。</li> </ul>

#### 11. 小地域ネットワーク推進事業（543,619円）

①小地域ネットワ ーク活動助成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○指定地域</li> <li>・3の2区ゆうゆう会、七友会、16区元気 クラブ、9区、10の1区</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●継続した地域活動支援として意義が大き い。</li> <li>●活動地域の拡大に向けた事業との連携が 必要である。</li> </ul>
②小地域ネットワ ーク活動推進会 議・研修会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小地域ネットワーク研修会</li> <li>・感染症予防のため未実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●小地域ネットワーク活動の必要性・重要 性を認識する機会として実施する。</li> <li>●実践活動地域の拡大につなげるため、町総 務課や地域包括支援センター等と連携し て展開していく必要がある。</li> </ul>
③研修会参加助成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○参加予定活動研修会が中止となり未執行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全道・道東地区での町内会活動の取り組 みを知る機会として参加の意義があるので、 参加助成を継続する。</li> </ul>
④小地域ネットワ ーク地域懇談会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小地域ネットワーク懇談会の実施</li> <li>・感染症予防のため未実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●今後も行政と協働して、実態調査未実施 の行政区に対して、役員などへ説明を行う。</li> <li>●新型コロナウイルス感染状況を見なが ら、実施する。</li> </ul>
⑤災害支援ネット ワーク事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>○防災センター視察研修の実施</li> <li>・7月8日 釧路市防災センター</li> <li>・参加者 14名参加</li> <li>小学生の親子を対象に、親子で学ぶ防 災教育として実施</li> <li>○防災訓練の協力</li> <li>・8月28日 上士幌町防災訓練協力 大規模訓練にボランティア団体「夢気 球」と参加し、炊出しコーナーを担当。</li> <li>・9月8日 3の2区地域防災訓練の協力 地図を用いて、避難所への経路と、要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●防災センター視察研修は、自分たちの地域 は自分たちで守るという意識付けになっ ている。</li> <li>●防災研修等を通して、災害時に対応でき る活動、災害ボランティアの育成が急務で ある。</li> <li>●防災訓練を実施している地域の支援を継 続するとともに、新たに実施する地域・団 体の発掘に努める。</li> <li>●小地域ネットワーク懇談会や地域防災研 修会を通じて、共助や自主防災の組織化に</li> </ul>

	<p>配慮者の確認を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11月16日 ぬかびら源泉郷地区防災訓練協力 非常食コーナーを担当し、日頃からの備えと、長期保存可能な食材について説明した。</li> <li>・12月4日、5日 上士幌小学校防災教育全学年を対象に防災授業を、町防災専門員と実施。避難所での仮設テント設営や、非常時持ち出しパックの講話、防災クイズや防災かるたなどを行った。</li> </ul> <p>○災害支援、ボランティア研修会参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11月10日 北十勝4町気象防災ワークショップ（帯広市）</li> <li>・2月1日 災害ボランティア担当者意見交換会（web参加）</li> <li>・2月20日 東日本大震災の経験から学ぶ災害ボランティアセンターの運営と地域づくり（音更町）</li> </ul> <p>○町と災害ボランティアセンター設置運営に関する協定締結</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月2日 町と協定を締結</li> </ul>	<p>ついて理解を得るとともに、組織化に向けて支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●地域実態調査を実施し、要援護者を把握することにより、地域の防災に対する意識も高める。</li> <li>●感染症の状況を見ながら、事業実施を行う。</li> <li>●災害ボランティアセンター設置運営マニュアルの随時更新を行う。</li> <li>●災害発生時に、災害ボランティアセンター設置運営マニュアルを基に迅速な対応を関係機関と連携し展開する。</li> </ul>
<p>⑥地域福祉・生活支援コーディネーター配置事業（町委託事業）</p>	<p>○地域福祉・生活支援コーディネーターを配置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援体制整備事業講演会を実施 「地域のお宝探し講座」 11月14日 消防庁舎 21名参加 「地域のお宝発表会」 3月19日 生涯学習センター 40名参加 講師：全国コミュニティーライフサポートセンター 理事長 池田昌弘 氏</li> <li>・まちなか農園の実施 コロナ禍でも男性高齢者が繋がりを持てる場として農園活動を実施。認定こども園、学校給食センター、上士幌福寿協会とも連携し交流事業を実施 参加者 延 326名参加</li> <li>・地域食堂の実施支援 地域の多世代交流等を目的とする「地域食堂」の実施を支援</li> <li>・スマホ教室の実施 スマートフォンの利用に困難を抱える高齢者に、使用方法を支援 個別相談 4名</li> <li>・日常生活総合支援事業、生活支援コーディネーターに関する周知啓発 地域サロンへ出向き、生活支援コー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域福祉コーディネーターを配置し、小地域福祉活動推進と活性化を図るとともに、総合相談・支援を行った。</li> <li>●町民の支え合い意識の醸成を目指し、講座を実施する。</li> <li>●多様な参画を促し、楽しさでつながる活動を創出、日常生活総合支援事業を展開して地域包括ケアの推進を図る。</li> <li>●まちなか農園を実施し、参加者が楽しみながら他者とつながる場を目指す。</li> </ul>



	<p>ディネーターの役割の説明を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ニーズ把握の実施 市街地区行政区長・民生委員児童委員宅への訪問を行い実施。気になる方へは訪問し、困りごとや緊急連絡先・健康状態等を聞き取りを行った。</li> <li>・実態調査の実施 地域包括支援センターと連携し実施</li> <li>・小地域ネットワーク及びサロン活動の支援（随時実施）</li> <li>・健康マージャンサークルの支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生活支援コーディネーターが地域のニーズ把握とサービス提供体制の構築を図り、地域包括ケアの確立を目指す。</li> <li>●個別訪問によるニーズ把握を行う。</li> <li>●実態調査を実施する町内会を拡大する。</li> </ul>
⑦地域支え合い推進会議の運営協力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域支え合い推進会議（1回開催）</li> <li>・10月31日</li> <li>・上士幌町の生活支援体制整備事業について説明、事業報告</li> <li>・令和5年度事業の進捗状況について、町事務局及び生活支援コーディネーターが報告、説明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●町・社会福祉協議会・まちづくり会社等が連携し、生活支援体制整備事業及び地域包括ケアの推進を進めるため、地域支え合い推進会議の運営協力をを行う。</li> </ul>

## 12. 福祉団体活動助成事業（124,000円）

①福祉団体活動助成・協力、支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○遺族会への助成</li> <li>○福祉団体への協力・支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●町からの補助金を継続助成する。</li> <li>●団体事務局を担うことで、団体運営がスムーズに行われた。</li> </ul>
-----------------	--	--

## 13. 生活福祉資金貸付事業（84,886円）

①生活福祉資金貸付事務（道社協事業）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新規貸付 0件（相談 0件）</li> <li>○生活福祉資金貸付事業研修会 ・9月28日 生活福祉資金現任職員研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●民生委員児童委員との連携強化を図りながら、随時相談に対応する。</li> <li>●セーフティーネットとして、相談者の状況を見極めながら対応している。</li> </ul>
②福祉資金貸付金（社協単独事業）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新規貸付 0件（相談 0件）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コロナ禍の社会情勢の中、生活困窮世帯が増加しており、生活困窮者支援事業とも連動し対応を行う。</li> <li>●未償還者への償還対応が課題である。</li> </ul>

## 14. 心配ごと相談所運営事業（48,644円）

①心配ごと相談所設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎月第3木曜日に定期開設 12回 ・相談件数 2件 ・行政相談員1名、心配ごと相談員6名</li> <li>○心配ごと相談員会議の開催（意見交換） ・4月6日 生涯学習センター</li> <li>○行政相談懇談会 ・10月26日 役場 会長参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●町民の心配ごととの相談窓口として、定期的に開設する意義は大きい。</li> <li>●総合相談窓口として職員が随時対応する。</li> <li>●関係機関・団体と連携し、相談者の問題解決のため、適切な対応を展開する必要がある。</li> </ul>
------------	---	--

## 15. 居宅介護支援事業（5,916,521円）

①ケアプランセンター上士幌運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>○専任1名、兼任1名の2名体制で運営</li> <li>・件数 要介護者 延べ393名(+3名)</li> <li>・入退院、施設入所により入れ替わりが多いが、町の受任調整によりほぼ増減なし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●居宅介護支援事業所として介護保険上必須であるケアプラン作成を行い、円滑なサービス調整・提供を実施した。</li> <li>●今後の町内の認定状況の推移を見ながら、</li> </ul>
-----------------	---	--

	<p>○町地域ケア会議、ケアマネ連絡会への参加</p> <p>○研修会への参加 (web 参加)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7月26日、8月8日、10月4日 主任介護支援専門員研修</li> <li>・10月18日 ケアラー支援関係機関職員研修</li> <li>・1月25日 ヤングケアラー、ケアラー支援者関係者研修会</li> </ul>	<p>専任1名、兼任1名体制で運営する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●研修会に参加し、専門性・資質向上を図る</li> <li>●ケアラー（介護者）支援を行い、虐待の未然防止を行う。</li> </ul>
--	--	--

16. 権利擁護成年後見事業 (129,989 円)

<p>①日常生活自立支援事業 (道社協委託事業)</p>	<p>○道社協実施事業への協力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・契約者 なし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●判断能力に不安がある方の支援として、金銭管理・契約行為の支援は非常に重要であり、事業の意義は大きい。</li> <li>●成年後見制度の前に利用可能な制度として、随時状況を確認し、道社協と連携して対応する。</li> </ul>
<p>②成年後見(法人後見)事業</p>	<p>○法人後見受任者3名(令和5年度実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度内の状況 新規受任1件(保佐類型1件) 継続2件(保佐類型2件)</li> <li>・7月24日 成年後見制度事業担当者研修・連絡会議(web参加)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●判断能力が劣り、成年後見制度の利用が必要な方に対し、社協が法人後見を受任し後見活動を行った。</li> <li>●今後、市民後見人養成講座修了者の支援員登録を得て活動支援を行う必要がある。</li> </ul>
<p>③権利擁護センター運営 (町委託事業)</p>	<p>○権利擁護制度全般に関する相談</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談 対応件数 延 111回(実相談32名)</li> </ul> <p>○権利擁護制度に関する広報及び啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症サポーター養成講座、認知症カフェにて説明 3回</li> <li>・町内金融機関に事業説明</li> <li>・パンフレットを作成し、各種窓口、金融機関に配置</li> <li>・社協だよりにて周知</li> </ul> <p>○権利擁護啓発事業「権利擁護セミナー」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未実施</li> </ul> <p>○権利擁護制度に関わる関係機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町、地域包括支援センター等と随時実施</li> </ul> <p>○市民後見人フォローアップ研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未実施</li> </ul> <p>○研修会への参加 (web 参加)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7月24日、成年後見制度事業担当者研修・成年後見制度事業担当者連絡会</li> </ul> <p>○虐待に関する事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアマネジャーや地域包括支援センターと連携して情報提供及び対応 相談・対応件数 1件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●権利擁護センターに関する広報啓発を行い、相談に関しては随時対応した。</li> <li>●関係機関・団体と連携し、権利擁護制度に係る敏速、適切な対応の実施に向けた構築が図られた。</li> <li>●親族後見人や市民後見人からの後見活動等の相談を受けている。</li> <li>●市民後見人養成講座修了者を法人後見支援員としての活動参加を促進する。</li> <li>●成年後見制度について学び、尊厳を守った支援、利用者本位の支援について理解していただいた。今後、制度の重要性が増す中で、自らが市民後見人として活動していくことが期待される。</li> <li>●虐待が疑われるケースに関して、随時包括支援センターに情報提供する。</li> <li>●ケアラー（介護者）支援を行い、虐待の未然防止を行う。</li> </ul>